

ネパールにおける NGO による図書館設置支援の現状と課題

森川 万里

ネパールでは、政府による図書館政策が積極的に取られていない。一方で READ や Room to Read といった NGO による図書館設置支援が盛んである。実際の支援活動については Room to Read の創設者 Wood, John による『マイクロソフトでは出会えなかった天職：僕はこうして社会企業家になった』、ネパール国立図書館などに努めた経験のある山田伸枝による『ネパールと私、そして図書館』、READ の図書館への訪問調査を行った Neuman, Susan B らによる When I Give, I Own: Building Literacy Through READ Community Libraries in Nepal がある。しかしながら支援活動に関する問題点や今後の課題などに言及した調査・研究はなされていない。本研究では、ネパールでの図書館設置支援の現状を明らかにし、図書館設置支援の課題を考察する。

研究対象は、主に READ と Room to Read である。調査方法は文献調査と聞き取り調査とする。聞き取り調査は Room to Read Japan 及び山田伸枝氏に対して行う。これらの結果からネパールでの図書館設置支援の現状と今後の支援の課題を考察する。

調査の結果、ネパール、READ、Room to Read について、以下のことが明らかとなった。ネパールは南アジアの内陸国であり、カースト制度が存在する。ネパールには約 650 の地域図書館と約 100 の公共図書館があるが、政府による図書館政策は積極的に採られていないため、個人や NGO によって図書館が設置されている。READ は 1991 年に設立され、ネパールでは 53 の図書館を設置し、識字教育なども行っている。Room to Read は 2000 年に設立され、ネパールでは図書館・図書室を 3,176 室、学校を 918 校設置している。

現状の課題としては、主に支援地域の偏りが挙げられる。READ、Room to Read によるネパールにおける図書館設置支援地域は、丘陵・タライ（平野）地域が合計で 49 郡に対して、山岳地域が 6 郡である。丘陵・タライ地域は人口の約 92% が居住しており、効率よく支援を行える。一方で山岳地域は独自の文化・言語を持ち、人口密度が低く施設設置に多くの費用がかかるため、支援の効率が下がりがちである。結果として山岳地域は、寄付者への成果の提示を必要とする NGO にとって、支援を行にくい地域となっている。しかし、山岳地域と丘陵・タライ地域の教育・経済水準の格差解消のためにも、山岳地域への支援は重要である。そのためには、施設利用者数や支援の費用対効果にとらわれない、支援の評価に関する新たな枠組みを作ると共に、活動規模の大きな組織による先駆的な取り組みによって、山岳地域やマイノリティ集団といった支援の難しい地域・人々への支援活動を活発化させる必要があると結論づけた。

今後は、各支援地域の図書館における具体的な提供サービスに関する現状調査に加えて、山岳地域における図書館に関する個別的な調査が求められる。

（指導教員 吉田右子）